

問題にあることを経叫し、進入して  
臣道實踐の道程に上らんとす。其  
の用意の周到なる、其の行道の淳  
美なる、敬服に値するものなり。  
足下の學識、經驗、雄辯、

スハ空襲ならんも、驚愕の中にも  
應念の身仕度ななし、婦人はモン  
パ姿も甲斐々々しく駆けつけ、見  
れば爆彈落下にあらずして、何ぞ  
圓らん汽車の衝突にして、其惨状

草野氏の美舉  
内郷 高等小學校同窓會長  
草野泰一氏は、常に社會公

### 内郷村報の 六大使命

- 一、政權改革を期して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其發展を計り、實現現勢努力の實現を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事興行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

# 内郷村報

天法人則  
從順ナレ  
ルベシ

## 國家百年の大計！ 人類千年の大畫！！

大政翼賛會 大内民惠  
福島縣支那顧問

### 一、緒言

河村瑞軒は、江戸大火の眞最中之を餘所に見ながら、木曾へ村木の買出しに馳せ向つたこと云ふ話にあまりにも有名な話である。  
予は敢て、其瑞軒を氣取るわけではないが、今や我國の當面する時局は、例へば當年の江戸大火のやうなものである。其總力を擧げて、之が鎮火に努むべきは當然であるが、其鎮火後の復興建設に對しても、之亦其總力を擧げて、之に當らなければならぬのである。而して其擧げたるや實に廣大、全東亞であり、全世界であり、將た全人類であるのである。又其事業たるや實に難澁、宗教であり、教育であり、將た教化であるのである。昭和の瑞軒たる又誰い哉である。

### 二、翼賛會へ諮問

予が二月四日午後一時より大政翼賛會本縣支部第一回役員會閉會の通知をうけたのは、其三日前であつた。役員各位は縣下各方面の代表者であり、又其各方面の權威者でもある。好機は逸すべからず、此機會に於て、年來の研究と主眼とを披瀝して、其批教と

協力とを仰がんとす、急遽次項の如き諮問欄願書を作製し、一家を機動員して、其題目を説明した内郷村報四枚二萬有は天法に歸す。新政體制は新教育體制から第二世補導機關設立の提唱。大政翼賛下の國民は須らく我高橋先生に學べ。の四論文を掲載したる返信用紙及同封筒（郵券貼附）を入れた大封筒に、夫々六十余名の宛名を書いて、會場に持参して閉會直後に於て、簡單に其理由を説明して、出席者全部に之を手交し、思惟なき御高見の一端をお渡し下さることを、懇願したのであつた。かくて不参者全部、及び本縣代議士全部、縣下各市長、縣下

### 小松縣會議長の書信

拜啓 上京滞在一週間以上に相成り、昨日歸宅致して御端書を拜見し、甚だ恐縮致し候。最初頂戴致すに直ちに内郷村報を拜見致し、御意見の程承り候。一項より四項に亘つて何れも同様に御座候。恐らく異議のある方は無之もの存じ候。只た之れが實行を如何に促進すべきものなり候を考慮すべきに存候。殊に大政翼賛會の新體制として求むる處は、御論議の通りなりと存候。全項共大賛成に有之候。今後本縣支部の實踐事項を作製するにも充分参考として講究可致。其内御拜願の機會も可有之候へば、其際に尙御高説拜承仕度希上候。各項に賛成々々でも、餘りに簡單にして失禮なりと存じ、御挨拶迄申上候。 早々 敬具

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の利益は予等に歸するも、實益を期すべし。

本紙定價 一月五圓 半年廿五圓 一年五十圓  
發行所 内郷村報社  
編輯者 大内民惠  
印刷所 平活版所

強。正。清。和。  
昭和十六年一月  
（第十五信）  
愛國婦人會内郷村分會

各郡町村會長全部、並に縣内外各方面に於ける、知友有力家各位に對しても、殆んど役員と同數を郵送したのであるから、其總數は百二十通に達したのであつた。  
三、予の諮問欄願書  
拜啓 今や果卵の時局！其最善を致して之を突破、國策の完遂を期することば、我等全國民の負はされたる當然の大使命、將た大任務たる、又言を俟たざるころでありませぬ。  
而して我等は更に、此時此際！百尺竿頭一歩否十歩を進めて、國家百年の大計、人類千年の大畫を樹立して、其達成を期すべきであります。痛切に考へらるゝのであります。然らば其大計は如何？  
一、人生觀宗教の確立。  
二、教育制度の劃期的改革。  
三、世界に於ける我第二世補導方策の確立。  
四、特に卓越せる模範的國民を表彰して其譽ふところを知らしむべし。  
刻下不肖の考案するところのものは、以上の四項であつて、別綴「内郷村報」に其概要を説明してあります。  
若し幸ひに、貴下の御賛同を得ば、之を我大政翼賛會本縣支部の下意として本部に上達し、以て其實現を期したいと存するのであります。

### 大原博士の回答

「一」萬有は天法に歸す」と、此複雑な人生を觀破する迄の御苦心には、滿腔の敬愛を表すと共に、「天法人則に従ふべし」となる一語を創作されて、自己の人生觀を確立された卓識は、大哲のそれに等しきものと感ぜられ、無條件にて信者となりませぬ。世の總ては科學的にも、大自然的法則に従つて、千古に亘つて流れ行くのです。人生はその流れの所、此所に始めて人生努力となるのです。然らざれば動物と等しくなるのです。尊嚴の人生觀の信者となつた所以です。  
「二」教育問題に就いて、時々御高説を拜聴しました事を感じまじうが、その時のみ成程と思ふが、寝る時分には全部忘れてしまふ、之れが教育に對する智識が零なるためです。従つて御高説を云々する資格全くありません。  
「三」小生渡米します以前には、彼地の第二世に對しては、全く無關心であつたが、渡米して彼地の同胞と、その第二世を見た時始めて之れは何んぞか方法が樹立してやるのが、本國の吾々の最大義務だと痛感した。尊嚴の補導方策は、最上のものと確信します。  
「四」實に然ります。各種の模範的國民を表彰して、第二のそれたらしむるに資する時、始めて精神的並に科學的文明が、その滅亡より救済されるものと思ひます。

結果を掲載したいと思つたので、二月十日迄に、御返信をいたさうと御願ひしたのであつたが、其切迄に下さつた方は、僅か十余名に過ぎなかつたので、甚だ失禮な思つたが、國家の大事でもあるので、端書を以て重んじて御願ひした結果、二十日迄に更に三十余通をいたしたので、合計五十二通に達し、翼賛會役員よりは二十通に旅行病氣其他の爲、お断りが

誠之、大原八郎、岡分丸治、内藤三郎、岩本茂一、内藤松次郎、齋藤善三郎、佐藤元治、星一、猪狩庄平、菅野三郎治、高橋三郎、鈴木春治、一谷源太郎、小樽山久作、保森覺園、木村守江、飯崎品（在ガバオ）塩津浪、前田恒治、三田村興二郎、上野頼榮、荒川靖、須田勝二、阿部和永吉、山崎忠兵衛、秀瀬日吉の諸氏。（順序不同）之を要するに、御回答を下さつて  
一 二面へ續く一

五、予の感想

以上御回答に對して、予の所感を断片的に開陳する。

一 我大政翼賛會支部の常務であり、理事であり、將た縣會議長であり、其推進力の中心たる、我小松茂藤治氏より、別項に掲載したやうな、御回答を得たことは予が衷心から、力強く將た感喜するところであつて、今後特に御支援御協力を仰いて、縣下同愛の士と共に、更に研鑽を重ねて、之を中央に提出し、其實現に邁進しようと思ふ。

二 第一項「人生觀宗教觀」に就いて。我等人生の一切萬事は、其人人生觀宗教觀より出發するものである。予が一生の悔みであり又研究でもあつた。故に此度の百二十通中、宗教家に送つた數通に對しては、格段の期待を以て居つたのであつたが、回答を下さつた方は其半數であつて、その何れもが「保留」にあらざれば「顧みて他を言ふ」であつて、予が切なる希望の中核に對しては、満足すべき批教をたまはらなかつた。これは頗る遺憾とした次第であつた。これ或は其屬する宗門に關係あるが故ならんか、一面恐縮したことはあつたが、又一面人生觀宗教觀問題に就いて、惜みを持つ俗人に對して、明晰なる教を垂れて、それを濟度するべきが、宗教家の本分にあらずか、さりとは卑怯千萬なり、なごさか不穩なる考が、腦中を去來したることであつた。希くは一般宗教家に對しても、予は虚心坦懐其高教を仰ぐに決して吝かならざるを、こゝに言

明するものである。年少學生時代より、熱心なクリスチャンであつたと聞いた、我大原八郎博士が、無條件で之をうけ容れられ、且其他の四十余名の方々も無條件で之を許すまで添へて、賛同して下さつたことは、予の無上の欣快光榮とするところであつた。されど是はすべて、宗教家ならぬ俗人の意見なるが故に、予は今後全國の宗教家に向つて、重ねて此問題に對する高教を仰ぐべく、其方法の研究にきりかゝつたのである。

三 第二項「教育制度問題」に就いて、五十二通中唯一人、勇敢にも「遺憾ながら貴下と反對」と其理由を簡明に示されたのは、誰一部に同感の意を表されたのは、誰あらず福島第一小學校長鈴木春治先生であつた。「流石は」かくてこそ、「愉快に堪へぬ感に打たれたのであつた。されど、に餘白がないので、後日必ず本紙上に、たまはつた其全文を掲げて、之に對する予の所見を述べて、お答をいたそうと思ふ。

又縣立靈塔地鎮祭の三田村與二郎先生の回答中、「教育者の一人として、今この所謂教育は眞の教育に非ず」と一大痛棒をうけ誠に汗顔の至りです。が後段で「全國中には少數ながら眞の教育者あつて云々」とあるのが、我意を得ました云々とあるのが、予は由來忌憚なき評論をするものであるが、其を發表する迄には、相當の苦心も、あらゆる角度から研究もして「人の美を成す」とに就いては最も深い關心を持つものであつて、先生に對しては、眞の教育者として常に敬仰して居るものである。こゝに於て「知己」なる誠の感にうたれたことであつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

各位の御配慮を煩はした結果は大體以上の通りで、先づ以て其勞を感謝すると共に、予の提案は、満點とはいひ得ないが、當然及第點には達したものと確信する。こゝに於て予は、之が實現方法として、先づ大政翼賛會本縣支部に向つて、以上の結果を報告具申し、縣當局の協賛支援を仰ぎ、中央本部の文化部に提案すると共に、政府に將た議會に、之を提議して以て其實現を期する運動を開始しやうと思ふのである。

國家百年の大計！人類千年の大計！特に衷心から一億國民各位の賛同協力を仰いで已まない次第である。

皇紀二千六百年奉祝記念として、舊曆十二月十六日附を以て、永年勤続の教職員並に村吏員に對し、沼田村長より、感謝狀に金一封を添へて其功績を表彰せられた。氏名は左の通りである

【教職員】  
勤続二十年以上—  
堀一郎、坪井文朗、加美山ツネ、藤岡千代、我妻新吉、草野五郎、佐藤三義、(以上尋常高小) 根本益材、黒田吉之助(以上第二校) 鈴木重顯、大橋貞勝(以上第三校) 佐川文雄(家政)

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

附せらるるに對しては、眞に感縮感謝に堪へぬ次第であつた。

常會協議決定事項

二月十五日村常會委員會... 年の衣食は昨年の産業に...

吉本師團長の來村... した一家の彌榮を祈願する...

左の成績を挙げた。金拾五圓、下綴。金貳拾七圓、御臺境。金五拾五圓八拾錢、高坂。金九拾六圓八...

教育制度改革概論

矢野 恒太郎 大内民惠著 (四六版二二頁 定價五十錢 稅六郵費)

我國教育學界の權威 前京大總長小西重直博士 著を寄せて曰く、多年御體験下實地ノ御試練ニ基ク眞學實國ノ大論ヲ著シ...

日本評論社 東京三丁目 矢野 恒太郎 著

忠靈塔地鎮祭 馬目太平治氏等が中心となつて、諏訪神社境内に敷地三百坪、工費八百圓を以て、忠靈塔を建設することになり、二十一日午後一時から盛大な地鎮祭を行つた。土臺七間高さ十五米半内部を納骨堂とし、戦歿勇士の遺骨の一部若くは位牌を安置し、保存する豫定で工費全部は全部寄附によることとし、馬目氏の大口寄附をはじめ、女子青年團が八圓、小學校児童が一圓等々を合せて、豫算額に達せしを以て、相當立派なものが出来上るものと期待されて居る。眞に近郷に其比を見ない美舉である。

皇紀二千六百年紀念 教職員村吏員表彰

増子銀二(第一校)。勤続十五年精勤五年。小野シマ(尋常高小) 勤続十年以上— 青山くにと、遠藤トミ(家政) 脇屋亮、高重辰、菅本ヨシヲ、三瓶道夫(尋常高小) 廣木春正(第一校) 新家千代、鈴木ヒサ、荒川スエ、渡邊トシ(第二校) 安積トビ、庄條トヨ、脇家トミ、和田千代、眞岡イマ、柳原つる、山崎富次郎、和田二郎、折笠サト、南波弘惠(第三校) 五ヶ年以上精勤者—

水野兵治(尋常高小) 高木勝男(第二校) 上遠野馨(第三校) 【村吏員】 助役金澤爲喜、收入役齋藤彌一、書記吉田仙次、同渡邊惣江、同菅波郡次、同小松柳太郎、同山崎千朝、同戸田政記。

忠靈塔地鎮祭

馬目太平治氏等が中心となつて、諏訪神社境内に敷地三百坪、工費八百圓を以て、忠靈塔を建設することになり、二十一日午後一時から盛大な地鎮祭を行つた。土臺七間高さ十五米半内部を納骨堂とし、戦歿勇士の遺骨の一部若くは位牌を安置し、保存する豫定で工費全部は全部寄附によることとし、馬目氏の大口寄附をはじめ、女子青年團が八圓、小學校児童が一圓等々を合せて、豫算額に達せしを以て、相當立派なものが出来上るものと期待されて居る。眞に近郷に其比を見ない美舉である。



予は足下を見ること誤れり

物江浩

大内民憲君足下！足下は数年の永きに亘りて、不肯浩に對し、足下の主官に係る處の、内郷村報を寄贈せられつゝあり。予は此村報を一讀して、足下は世に云ふ、一種の奇矯人に非ずやと思ひり。然るに予は一たび二たび、足下と膝を交えて、親しく足下の、天法人則に従順なるべしといふ、理念の意を拜聴して、足下の人格の偉大なるを、識見の高遠なることを知り、始めて足下を見るの明に乏しかりしを感知し、衷心切かに忸怩たるを覺え、多謝措く能はざるなり。

一月十八日午前一時、本郡上遠野尋常高等小學校内、女子青年學校舎一棟焼失したるを聞き、急遽現場を視察し、知巴齋藤校長と親戚を見舞ひたり。焼失したる校舎の直下、近接せる杉皮葺の家屋を始め、附近には草葺家屋立並びあるも、少しの被害なく難を免かれたるを不審に思ひ、此間の消息を尋ねたるに、消火器の到着前、逸早くも家庭防空群の婦人連は、日頃訓練されたが如く、マクツ隊は列を作り、火の子をくわつて、盛んに屋根に撒水したるを以て、頌徳を未だに防止し得たる爲め、隣家の人々は、防空群必死の活躍のお蔭なりと、只管感謝し合ひりし聞きたり。

家庭活躍實話

内郷村 田口淳三



物江浩氏

再讀三讀して、足下の世道人心の向上刷新に、實献せられたる尊き動向を、窺知して得て、一段の敬意を抱きたり。予の謝辞非才、足下を見るに敏ならざる、悔いても尙及ばざるなり。乞ふ足下恕せよ。足下の將來の針路は、一、海外に於ける第二世補導問題。二、人生觀確立問題。三、教育制度確立問題にあることを絶叫し、進んで臣道實踐の道程に上らんことを。其の用意の周到なる、其の行道の淳美なる、敬服に値するものなり。足下の學識と、經驗と、雄辯と

一月十八日午前一時、本郡上遠野尋常高等小學校内、女子青年學校舎一棟焼失したるを聞き、急遽現場を視察し、知巴齋藤校長と親戚を見舞ひたり。焼失したる校舎の直下、近接せる杉皮葺の家屋を始め、附近には草葺家屋立並びあるも、少しの被害なく難を免かれたるを不審に思ひ、此間の消息を尋ねたるに、消火器の到着前、逸早くも家庭防空群の婦人連は、日頃訓練されたが如く、マクツ隊は列を作り、火の子をくわつて、盛んに屋根に撒水したるを以て、頌徳を未だに防止し得たる爲め、隣家の人々は、防空群必死の活躍のお蔭なりと、只管感謝し合ひりし聞きたり。

眞に名状すべからざるものなりしに、婦人連は此場に在りて、何れも勇敏に、敏活に、傷者の介抱に、乗客の避難に、男子も及ばぬ活躍をなしたりし仄聞す。家庭防空群の平素演習中、動もすれば見舞の如く一笑に附し、眞面目を缺くものありしに、今回前記の場合に於て、訓練の効果現實顯著なりしを認むるを得たり。支那事變の處理未だ成らざるに、更に日米の國際關係は、日々急迫を告ぐるの今日ありては、深く時局を認識するに共に、益々防空思想を昂揚し、防空訓練の猛進を重んじ、以て有事に備ふるの心掛こそ、魚眉の急なりと、絶叫する所を以て、敢て實話を江湖に告げ、其關心を促す次第なり。

其の事に盡碎されつゝありしが、此程卒先有志家の門を叩き、寄附募集をなしたるに、豫定の額に達したるを以て、優秀なる擴声器と映寫機とを購置し、母校に寄附したるを以て、紀元節の佳辰に當り左の如き感謝状を贈りて其勞に報いたり

感謝状  
平素社會公共福利増進ニ想ヲ致シ美學妙シトセズ殊ニ皇紀二千六百年ノ佳辰ニ際シテハ母校内郷尋常小學校ニ擴声器並ニ映寫機設備ヲ計劃シ施設ノ完成ヲ見ルニ至リ教育上非常ノ効果ヲ致シ得タルハ是レ君ガ盡力幹旋ノ効果ト玆ニ連署ヲ以テ感謝ノ意ヲ表シ候也  
昭和十六年二月十一日  
内郷村 校長 名  
内郷尋常小學校校長 名  
尚同校同窓會は、久しく冬眠状態に在りしを痛嘆し遂に之れが復興を實現し、再來同窓會の發展に銳意奔走の給果、囊に「ピアノ」一臺を購置寄附したる等、氏の力に俟つ處頗る多く、郷党皆氏の熱誠を賞讃しあひり。(田口生投)

戰線の將兵各位へ  
紀元二千六百年の新春を迎へ謹みて皇軍將士の皆様に年頭の御挨拶申上御武運長久を祈り感謝の意を表します。聖戰早や五年目前線皆様の御奮闘に依り銃後は變りなく暮すことが出来ず、それに付けても私共は倍々引縮り必勝を期して皇國の爲に孫の爲に與亞新秩序建設に進んで居ります。(村内近況)十五年秋豐至極良好、稲作野榮平年作、濱は活況を呈し、鑛業界其他統制も手不足なるも張り切つて精出して居ります。十二月二十三日日本村常會部會結成隣組も出来、上意下達、下意上達この機關を通じて物品の配給をうける事か出来ず、十五年度會員一同にて得ました資金の中より海軍恤兵金參百圓を寄附致しました。九月より十一月末日迄の會員各自勤勞奉仕(稻刈手傳、山の下刈、トンネル工事入夫)この會員の一部を以て分會資金を作りました。慰問袋蒐集及製作方は全部婦人會にて之を致して居ります。兵隊さんの爲ならば御腕方部等は川工事に出て寄附不足を補ふなき皆一生懸命です。本年當地方は昨年よりすつと暖です。御地殿の折柄御自愛下され東北健兒の意氣を充分發揮して下さい。御留守宅御慰問申上ました處御元氣です御安心下さい。  
強。正。清。和。  
(第十五信)  
昭和十六年一月  
愛國婦人會内郷村分會

草野氏の美譽  
内郷尋常小學校同窓會長 草野泰一氏は、常に社會公

内郷村報の 六大使命

- 一、政策推進を期して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外公私各種團體の活動状況を報導し併せて其盛衰を計り、實現和進努力の實績を期す。
- 三、本村社會事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事興行を表彰し、是之を奨励す。
- 五、本報を本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

各郡町村會長全部、並に縣内外各方面に於ける、知友有力家各位に對しては、殆んそ役員と同數を郵送したるの爲め、其總數は百二十通に達したのであつた。

本報發行は内郷一報の事業とし、其の利益は悉く村に歸する爲めを標榜するなり

本報定價 一部五錢 一年五圓 半年三圓 四角五分 郵費在內 廣告費別議 發行所 内郷村 報社 印刷所 平活版所

あつたのは五通であつた。其各位に對して厚く御禮を申上げる。四項全部に賛同あられた方は、四十三名。御返答を保留せられた方は、第一項第二項に對して各三

内郷村報

天法 順人 則

天法 順人 則

天法 順人 則

天法 順人 則